



AMS MathSciNet インタビュー



数学研究の必須データベースである
MathSciNet についてお話を伺いました。

弘前大学 理工学研究科
立谷 洋平准教授

論文の引用・研究動向の把握が可能に

MathSciNet は非常に優れた文献・論文の検索機能を有している。例えば、自著論文の引用状況を手早く知ることにより、自身の研究の位置づけや貢献を把握することができる。また、自著論文に限らず全ての論文の引用状況がわかるので、先行結果がどのような流れで拡張されていったかという歴史的事実を客観的に読み解くことができる。

特に、私自身は MSC※を起点として論文検索ができる点を重宝している。関連分野に限定して情報を絞り込むことができるため、その方向での最先端の研究動向を把握することができる。また、自身の研究分野に関する論文が、近年どのような雑誌に投稿されているかという傾向も知ることができる。

※Mathematics Subject Classification

院生・学部生の研究サポートとしても活用

本学では学部3年生の後期から研究室配属となり、セミナーでは数学の専門書をテキストとして利用しているが、専門書に書かれている内容を完全に理解するためには、行間を埋める作業や証明を補完する必要が生じる。その際、参考文献などの指示があれば、関連する文献・論文を MathSciNet で検索し、レビュー情報を参照したり、本学が契約している電子ジャーナルをダウンロードするなど、**参考文献を調査するツールとしても MathSciNet は活用されている。**

また、大学院生も論文作成にたずさわる際に MathSciNet を用いて、テーマの発掘や関連文献の検索を行っている。検索作業を通して、現在学んでいる数学分野の位置づけを把握することは学生自身の学習・研究の動機を高めることにもつながる。

MathSciNet の研究における役割

普遍性と多様性をもつ数学の学問としての歴史は古く、研究分野に関する文献を過去に遡って調べることは容易ではない。自著論文の引用状況を手早く知ることにより、自身の研究の位置づけ・貢献を把握し、他の研究者との交流の道が開ける点で MathSciNet は必要不可欠である。

純粋数学以外にも広がる MathSciNet

必ずしも純粋数学だけに特化したツールではないという点を周知してほしい。幅広い数理科学の枠組みで活用できるツールであるという認識が広がることを期待している。

MathSciNet のご利用にあたってのお問合せは、最寄りの丸善雄松堂 営業支店または下記までご連絡をお願いいたします。新規導入に向けたトライアル等も実施しております。

(AMS, USA / 日本国内総代理店 丸善雄松堂)